

全 49 枚(表紙共)

ロータリーのミニ情報集

(2005 年 11 月 25 日～2006 年 4 月 25 日)

(大和高田ロータリー・クラブのメーリングリストでの情報を主に編集しました。)

(注)7/,43/,47/48 一部削除と誤字訂正する。

大和高田ロータリー・クラブ

2006.4.25 作成

杉田 博 著
も く じ

回	表 題	page
0	まえがき ----ロータリーとは----	2
1	創始者ポール・ハリス(ロータリー創立当時まで)	9
2	ポール・ハリス放浪の旅	10
3	ロータリーの概要	11
4	クラブ定款と細則	12
5	クラブへの入会	13
6	ロータリー・クラブ会長	14
7	クラブの週例会	15
8	クラブ協議会	16
9	地区ガバナー	17
10	地区大会	18
11	ロータリーの友	19
12	ロータリー米山奨学事業のあらまし(1)歴史・沿革	20
13	ロータリー米山奨学事業のあらまし(2)米山奨学金制度の特徴	22
14	ロータリー米山奨学事業のあらまし(3)寄付金と表彰制度	24
15	ロータリー米山奨学事業のあらまし(4)米山学友の活躍	26
16	ロータリー米山奨学事業のあらまし(5)米山奨学事業の変革	28
17	ロータリー財団のあらまし(1)歴史	30
18	ロータリー財団のあらまし(2)財団のプログラム	32
19	ロータリー財団のあらまし(3)シェア・システム	36
20	ロータリー財団のあらまし(4)財団寄付	37
21	クラブ・リーダーシップ・プランについて	39
22	ロータリアンの幸福	47

本書は 2005 年 11 月 22 日から毎週のメーリングリストでのロータリー情報「4 分間スピーチ」シリー

ズをもとに編集したものであります。

0. まえがき

---ロータリーとは---

はじめにロータリーの歴史をたどって、簡単に「ロータリーとは」を考察してみます。

新しい環境に移ったとき、私たちには慣れ親しめる努力が必要になります。1905年、弁護士ポール・ハリスが鉱山技師、石炭商と洋服仕立人である異業種4人でスタートしたロータリーの組織が今世界の168カ国、クラブ数32,462、会員数1,209,790人(2005年12月末)、日本ではクラブ数2,325、会員数101,407人(2006年1月末)を擁する大組織にふくれあがりました。その結果、ロータリーのプログラムも多様化し、要望される奉仕の需要を満たすためにも財政的な基盤拡大が必要になりました。そのためには、会員を増強することが急務になってまいりました。



←ロータリーの創始者（左より）

シルベスター・シール（石炭商）／ポール・ハリス（弁護士）／ハイラム E ショーレー（洋服仕立人）／ガスターバス E ローア（鉱山技師）

ロータリーは長きにわたり職業奉仕という倫理哲学の高揚を掲げてまいりました。ポール・ハリスは社会に役立つ人間になるにはいろいろな方法があるが、最も身近で効果的な方法は、自分の職業にあると説きました。そして、高い倫理規範に忠実に裏打ちされた職業観こそ職業奉仕であると主張しました。また、ポール・ハリスは職業奉仕とは、会員一人ひとりが自分の職業の倫理的水準を高めることによって社会に貢献していくことであって、会員個人個人の自己練成の場がロータリーであると説いています。



アーサー・シェルドンは職業奉仕理念を分かりやすく表現した。

1910年 職業奉仕概念を導入(第1回全米ロータリー・クラブ連合会)

「仲間に最もよく奉仕する者は、最も多く報いられる」

1911年(第2回全米ロータリー・クラブ連合会)

「仲間に最もよく奉仕する者は、最も多く報いられる」

He profits most who serves best(2001年に They profit most who serve best に変更)



フランク・コリンズは Service,not self 「無私の奉仕」(自己の利益だけでなく他人に奉仕することが重要である)

1911 年(第 2 回全米ロータリー・クラブ連合会)

Service above self 「超私の奉仕」に繋がるといわれている。(疑問あり)

Service,not self 「無私の奉仕」についての真意

「炉辺談話 312 Service,not self の真意」田中 毅 PDS 著

「Service, not self」の解釈を巡る今回の混乱の元凶は Oren Arnold が書いた「Golden Strand」という本にもあります。この本にはフランク・コリンズの職業を弁護士と書いてありますが実際には果物卸売商です。また、「この演説はアーサー・シェルドンの有名な宣言 He profits most who serves best を最初に聞いてから、僅か数分以内になされたものであった。」と記載されていますが、実際はシェルドンの原稿が読み上げられた前日、1911 年 8 月 22 日に行われたコロンビア川をさかのぼる船旅における即興演説です。

さて、Service, not self という言葉の持つ意味について、「Golden Strand」は次のように記述しています。

Service, not self そう、何れにせよ、自己の存在を考えることが、まったく悪いわけではない。例えば、人間は自尊心を持つべきだし、自分自身を守らなければならない。もし自分自身が零落すれば、奉仕することなどできるわけではない。従って、Not Self が、何を意味しているかを理解することは、まったく難解である。自分自身を二の次にしておくのは良いとしても、それを完全に否定するのはどうかと思われた。「よし、それなら Service Above Self にしたらどうだろうか？」誰かが意気揚々と、適切な提案をした。「それは良いね！」別の人が叫んだ。たぶんそれは、販売の専門家アーサー・シェルドンの興奮した声であつたに違いない。「それはよい方針であり、すべてを言い尽くしている。」明らかに、彼の発言は正しく、その提案は満場一致をもって採択された。

この本には、Service, not self は自己を完全に否定した考え方であると述べていますがコリンズのスピーチの内容は決してそのようなものではありませんし、Service above self に変えたのはシェルドンかも知れないと言っていますが、それを証明する資料は残っていません。このように、「Golden Strand」に記載されている Service, not self に関する一連の記載を読むと、この作者はひょっとしたらフランク・コリンズのスピーチ原稿を読まずに、伝聞によって得た知識を記載したのではないかと思われるふしが各所に見られます。この本は

初期ロータリーを知るための読み物としては非常に良い本である一方、ロータリー史の教科書としては問題の多い本だといえます。

或る指導的な立場にあるロータリアンは、未だにコリンズは弁護士であり、**Service, not self** は中世キリスト教神学の思想以外の何者でもない優れた宗教的色彩の強いモットーであって、自分を否定して、宇宙を支配する神の秩序体系に帰依することであると述べていますが、コリンズは自らのスピーチで、自分の職業は果物卸売商であると述べており、さらに、彼の原稿からは、宗教的な高邁な思想を感じとることはできません。

以下、このスピーチ原稿の内容の概略を紹介します。

ロータリー・クラブの組織では、なすべきことはただ一つであり、それを正しく始めなければなりません。正しく始めるためには、ただ一つの方法しかありません。自らの利益が得られるかもしれないと思ってロータリーに入ってくる人たちは、間違った部類の人たちです。それはロータリーではありません。ミネアポリス・クラブによって採用され、当初から定着している原則は **Service, not self** です。

「利他のためにロータリーに入るべきであり、その原則をミネアポリス・クラブでは **Service, not self** という言葉で表している」という説明であり、入会の動機を戒めるこの言葉の中に高い宗教的な要素が含まれているとは感じ取られません。

- 月に1回ではなく、毎週1回の例会を開催している。
- 外部からの卓話者を呼ばずに会員が実施している。
- 友愛委員会の活動として、昼食例会のチケットを会員の事業所で発売し、会員がそれを買に行くことによって会員間の人間関係を緊密にすることができるし、新入会員の世話をしたり、会員から提供された食品を集めてディナー会を開催する活動を実施している。
- ロータリアン同士の相互取引が原則であるが、ロータリアンの店だけの取引では限界があるので、積極的にロータリアン外の人とも取引をすべきである。
- 他の会員との相互扶助も大切である。ロータリアンの紹介によって大きな取引ができた不動産業者の実例。
- ミネアポリス・クラブの会員同士の友情は素晴らしい。何か困ったことがあれば、ミネアポリス・クラブに行きなさい。ミネアポリス・クラブを象徴する言葉こそ、**Service, not self** である。

以上の内容が、コリンズが語ったスピーチ原稿のあらましです。

この中から、強い宗教的色彩も、中世キリスト教神学の思想を感じ取れるはずもありません。

ん。クラブ会員の親睦の大切さを説き、さらにロータリアン同士の物質的相互扶助の大切さを説きながら、ロータリアン以外の人たちとの取引も勧めるという矛盾に満ちた内容であり、なぜ、Service, not self がミネアポリス・クラブに定着している原則なのかが理解できません。

強いてこじつけた解釈をすれば、今まで、会員同士で行ってきた物質的相互扶助を、会員外に広げることによって、それを利他の心と説いたのかも知れません。自らの利益だけを考えずに、他人に奉仕する意味で Service, not self という言葉を作ったとすれば、この言葉は職業奉仕のモットーである He profits most who serves best を補完する言葉であり、当時の年次大会の雰囲気から考えると、そう考えるのが当然かも知れません。

何れにせよ、Service, not self という言葉は、人道主義的活動を意味する言葉としてその後作られた Service above self とはまったく別次元の言葉だということは間違いありませんし、Service, not self が自己滅却という強い宗教的色彩を帯びた言葉であり、それを緩めた言葉が Service above self であるという解釈は間違った解釈です。なお、その Service above self という言葉が、何時、誰によって作られたのかは不明です。



アーチ・克蘭フ

1917年RI会長時にロータリー基金の重要性を説き、今日のロータリー財団の種まきとなった。

「さまざまな社会奉仕を今まで通っていていこうと思うなら、世界で善を成すための寄付金を受け取ることは極めて適切なことだと思われる」と語った。

ロータリーの精神的基盤は？・・・決議「23-34」



ウィル・メーニア Jr; 職業奉仕と社会奉仕の理念の調和を図りロータリーの分裂の危機を救う

手続要覧の社会奉仕の章に「社会奉仕に関する 1923 年の声明」として詳細に記載されています。社会奉仕活動に対する方針の 23-34 の本文は、ロータリーのバックボーンとも言うべき重要決議で、これは 1923 年国際大会（セントルイス）で単一プログラム「手足の不自由な子供たち」に重点を置くことを否認し、34 号では奉仕プロジェクトに関するクラブの自立性についてのロータリーの方針を確立された。

その後 5 回程追加補正が行われました。その中に『ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」(Service above self)―の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践理論の原理に基づくものである。』

この前文に記されたロータリーの人生哲学と実践倫理は最も肝要な部分で、何人もこれを書き換えることのできないほどの名言であり、ロータリーの精神的基盤です。その他社会奉仕を実施するに際しての諸注意事項が列挙されていますが、この決議は、単に社会奉仕のみでなく、あらゆるロータリーの奉仕活動のあり方、基本を示したものとしてロータリー活動実践の拠り所として熟知しなければならないとされています。

四つのテスト



ハーバート・テーラー

1932 年、倒産寸前のクラブ・アルミニウム社再建のために考え、実践したスローガン。1954 年その版權を RI に寄贈

The Four-Way Test

Of the things we think,say or do

- 1)Is it the TRUST?
- 2)Is it FAIR to all concerned?
- 3) Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
- 4)Will it be BENEFICIAL to all concerned?

私たちが考えたり、言ったり、行ったりする際の指針にしよう。



チェスレー・ペリー

ポール、シェルドンとシカゴクラブの対立

全米 16 クラブの連合会設立

クラブ・・・親睦 連合会・・・理念提唱・拡大

事務総長として 32 年間在職 (1911～1942 年)

1925 年ポール・ハリスはペリーを第 1 回連合体の大会の召集などに対し「ロータリーで、私以外の人物が何かを率先したのは、あの時が初めてだった」と賞賛している。

ロータリーは横並びの社会

新会員の皆様を対象とした、オリエンテーションであります。教育とか訓練とか言う言葉は不適切であります。よくロータリー誕生の背景としてこんなことが言われます。もし、ポール・ハリスが日本に生まれて、ロータリーを創ろうと思ってもできなかったであ

ろう。

日本社会では、仮に事業を起こし開業をしようとする時には、自分に深くかかわりのある親戚縁者や、学校に先輩、地域や業界の顔役に相談し力を借りないとうまくいかないという縦の社会構造があります。

自分の故郷を捨てアメリカ社会で生きようとする人々は、友人を頼りにする、横の繋がりを大事にする、社会構造になっております。従って、ロータリー活動は、上意下達の世界ではなく十分議論をし、理解、納得をしたうえで行動に移すという合議組織でなくてはなりません。

日本ロータリーの原風景

日本にロータリーが誕生したのは1920年(大正9年)10月に創立された東京クラブで、初代事務総長チェスリー・ペリーと米山梅吉、福島吉三次などの先達の功を忘れることはできません。しかし、この当時のロータリー会員は、超一流といわれる人々であり、奉仕活動をするというよりは、社交クラブ的雰囲気強く、例会も月1回程度でありました。しかし、1923年(大正12年)の関東大震災を契機にして日本のロータリーは大きく変わっていきます。

ロータリアン

ロータリーの綱領は初期には2項目からいろいろの変遷して、1951年に改訂された綱領の下に集った会員であることを肝に銘じて努力し実践していかなければなりません。

有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓舞し、これを育成する。

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広める
- 第2 事業および専門職務の道德水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること；

残した数々の教訓

関東大震災時の RI、RC の活動や東京ロータリー・クラブの活動は我々にさまざまな教訓を残してくれました。

第 1 は対応の迅速さであります。当時の通信事情を勘案してみると驚く速さです。人間の好意とか誠意とかは対応の速さで違ってくることをすでに充分学んでいます。我々の援助活動を省みることは有益ではないでしょうか。

第 2 は東京ロータリー・クラブの援助金の配分のあり方であります。食料や衣服という生活用品の提供ではなく、「人を対象」として「心に響く」ような援助を行っており、一つ一つ今何が必要であり、重点とすべき援助を何にするかを慎重に検討した後のしのばれ、「心」を持って援助を行っている点であります。私たちの現在の援助活動の背景「心」は果たしてどうなのか?それにつけても、明治育ちの日本人の「心」と「人格」はロータリアンとしてすでに世界水準を持ち、偉大だったと改めて認識と尊敬の念を新たにす次第です。

第 3 は諸外国の援助状況の中で、大震災時の世界の援助によって、日本人が初めて世界社会を意識したといわれています。ロータリー・クラブにおいても、大震災以後各国の RC の人達が日本を訪れると会員は積極的にこれらの人々の招待を行い、また海外に出かけるときは先方の会員を訪問するという民間外交に発展させました。今日で言う国際交流は実にこのときに始まったということでもあります。

このように関東大震災をたどってみると差天座真名教訓に出会い、真に感慨深いものがあります。いうならば、関東大震災こそ日本ロータリー・クラブの「原風景」であり、永遠に記録し記念とすべきものではないでしょうか。

我々、日ごろのクラブ活動では「奉仕、即ち、与えるもの」のみになっているような感がある今、関東大震災の折の世界各国からの「援助」と「友情」を日本ロータリーの原点と改めて想起し、「心」と「人格」がこれからもロータリー活動のバックボーンであり続けるようにと願いたいと思います。

「与えられることを知ることは、与えることを知るに通じる」にではないでしょうか。

(参考文献)

奉仕の一世紀 (国際ロータリー物語)

2005-06 年度 2840 地区 新人研修セミナー 基調講演参照 2840 地区 清 章司 PG

1.創始者ポール・ハリス(ロータリー創立当時まで)

ポール・ハリスは1868年4月19日、ミシガン湖畔にあるラシーンという町に生まれました。父ジョージは社交的な性格でしたが経済観念に乏しく、祖父の援助で開業したドラッグストアも倒産に追い込まれて1871年に一家は離散し、3歳のポールはバーモント州、ウォーリングフォードの谷間にある父方の祖父母の家に預けられました。ポールは、厳格でありながら愛情に満ちた祖父母のもとで成長し、ここで誠実、質素、寛容、無私という精神を身に付けました。この少年時代の体験がポールのバックボーンを形成して、ロータリーの理念に大きな影響を与えることとなります。

少年時代のポールは悪戯好きで冒険心に富み、退学処分を受けたりもしましたが、やがて教育熱心な祖父の期待に応えて天性の素質を開花させ、名門校プリンストン大学に入学しました。しかし、翌年祖父が死去したためにプリンストン大学を去り、1年間働いてから祖母の希望に従い、弁護士になるためにアイオワ州立大学に入学して、1891年に法学部を卒業しました。

その後、5年間の放浪生活で人生を学び、また勤務先では引き留められましたが、経済的理由からではなく「本当の人生を生きるために」シカゴに落ち着く決心をして、1896年に法律事務所を開きました。シカゴの街で親友のない淋しさに耐えられなかったポールは、ある晩仲間の弁護士と郊外を一緒に散歩した時に、その弁護士が付近の商店主たちと親しく挨拶を交わすのを目撃して、故郷ウォーリングフォードの生活を思い出し、「実業家が友人関係を築き、同時に仕事の取引も出来るクラブ」を作りたいを思い付いたといわれます。彼は後年、「ある意味では、ロータリーは故郷の谷間から生まれました」と書いています。

この着想を数年間温めていたポールは、1905年2月23日、3人の若い実業家を誘い、お互いに故郷の村で経験したような助け合いを推進し、親睦を深める方法についての彼の計画を打ち明け、全員賛成のもとにロータリー・クラブを創立することになります。こうして「相互扶助」と「親睦」からスタートしたロータリーでしたが、それに飽きたらなくなった会員たちによって、「奉仕」の概念がロータリーに導入されるようになりました。その時、古参会員たちの反発もあった中で、ポール・ハリスは新しい会員たちの側に立って、そうした奉仕の概念を採り入れ、今日のロータリーの基礎を固めました。

2. ポール・ハリス放浪の旅

ポール・ハリスは1891年、23歳でアイオワ大学を卒業し、法学の学位を取得しました。その時、同期の多くの仲間は弁護士として開業をしました。しかし、ポールは大学の講師が「まず小さな町に行って5年位、愉快に過ごし、その後に弁護士開業をすべきだ」と述べたことに従いました。ポールはお金がないので、アルバイトをしながら5年間をかけて、アメリカの各地だけでなく、外国も見てこようと決心しました。

まず西部に向かい、どんな仕事でも引き受け、山でも荒野でも分け入り、長距離を歩き通し、貧困のどん底の時には野宿をしたり、大都市の通りをほっつき歩くこともありました。時には飢餓状態に陥り、窮乏生活を味わう日々もありました。サンフランシスコでは地方の新聞社のフリー・ランサー(自由契約記者)になりました。もちろんサンフランシスコにはベテラン記者があふれていたのですが、ポールにはニュースに対する嗅覚があり、すぐれた文章スタイルだったということです。

一時、マラリアにかかり、休養をとらざるを得ませんでした。その後、南部諸州ではピープルズ劇場で役者をしたり、カウボーイになったり、新聞記者をしたり、ホテルの夜勤事務員になったり、農作業もしました。心配した友人からは「頭が変になったのではないか」という手紙さえきました。比較的長く勤めたのは大理石のセールスでした。1893年には首都ワシントンで臨時記者もしています。フィラデルフィアでは新聞の求人広告を見て、イギリス船籍バルチモア号の家畜係になってイギリスに渡りました。

家畜係なので労働条件は非常に悪く、他の乗組員には荒くれ男もいました。しかし、それに負けることなく、後には船員を監督する副主任としてイギリスに再び行っています。その後1896年にハリスは失業者のあふれていたシカゴに定住して、放浪は終わります。

ロータリーの創立者としてのハリスの生涯を振り返ってみると、この放浪は決してむだな5年間ではなかったと考えられます。この5年間の体験によって、ハリスは祖父母から教わった人間の尊厳というものが、いかに尊いかという認識を深めました。また、この体験を通して、世の中の多様性への洞察力を得ました。

3. ロータリーの概要

不況で荒れすさんだシカゴで、あたたかい人間関係を求めている青年弁護士ポール・ハリスが3人の仲間と共に、最初の会合を持ったのが1905年2月23日でした。丁度今から100年前になります。この4人は互いの事務所で「輪番」に会合を開きました。当初の目的は親睦と相互扶助でした。この4人のグループの名称を「ロータリー」と、会員を「ロータリアン」と呼びました。新たなメンバーが加わり、正式にシカゴ・ロータリー・クラブを組織しました。しかし、多忙な職業人が毎週集まるためには目的に職業奉仕と、恵まれない人々への援助も加えられました。

それが初期ロータリアンの努力の成果として、「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という標語にまとめられました。クラブ数が多くなるにつれて、ロータリー・クラブ全米連合会、ロータリー・クラブ国際連合体、そして国際ロータリーと発展してきました。国際ロータリーの第一の目的はロータリーの綱領を推進するために世界中のクラブを支援することです。ロータリーの奉仕を導く羅針盤として「ロータリーの綱領」が作られています。

奉仕はクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕と国際奉仕に分離されます。クラブ奉仕は土台となり、親睦、例会、ロータリー情報や広報、会員増強などです。職業奉仕は「四つのテスト」を実行し、倫理向上に努めています。社会奉仕は地域のニーズに応じ、国際奉仕は国際理解と平和を求めたものです。ロータリー財団の使命は地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じてロータリーの綱領と使命を実行するものです。

国際ロータリーの立法機関としては3年毎に規定審議会が民主的に開催されます。その決定は「手続要覧」に記されます。ロータリー・クラブは2004年12月末現在で世界の166カ国にクラブ数32,176、会員総数は約121万人です。2005年6月現在、世界のロータリー国数は2カ国増えて168カ国になりました。

日本では2005年2月末現在クラブ数は2,329、会員数はおよそ103,591人です。これは世界の会員数の8.5%になります。女性会員数は世界で既に15万人を超え総会員数の12.5%を占めています。女性のガバナーも世界で66人と増加し、まもなく女性のRI理事や会長も夢ではなくなりました。時代の変化と共に多様性が求められています。

4. クラブ定款と細則

RI に加盟するに当たって、ロータリー・クラブはクラブ定款として標準ロータリー・クラブ定款を採択しなければなりません。クラブ細則については、推奨ロータリー・クラブ細則が推奨されていますが、クラブ定款および国際ロータリーの定款、細則と矛盾しない限り、クラブ自身の事情に応じて変更することができます。もし疑問がある場合は、その変更案を RI 事務総長に提出して RI 理事会の審議を乞わなければなりません。

しかし、1922 年ロサンゼルス国際大会で、「今後 RI に加盟するすべてのクラブは『標準ロータリー・クラブ定款』を採用しなければならない」と決定されましたので、1922 年 6 月 6 日より前に RI に加盟したクラブおよび RI 試験的プロジェクトに参加しているクラブは、そのクラブ独自の標準ロータリー・クラブ定款および RI 細則の下に運営する資格を有することとなっています。

クラブ定款は、クラブの名称、クラブの所在地域が明記され、ロータリーの綱領を全面的に受け入れることなどが定められています。またクラブ例会、会員身分、職業分類、出席、クラブ理事会の構成と役割、入会金および会費などの支払い義務についても決められています。更に、また、クラブ定款には会員である義務として、ロータリー雑誌の購読、綱領の受諾とクラブ定款・細則の遵守、仲介及び調停、地域社会・国家および国際問題などについての規定も含まれています。

推奨ロータリー・クラブ細則は、上述したとおり、そのまま採用するよう義務づけられるものではありませんが、クラブ理事および役員選挙、理事会、役員任期、会合、入会金および会費、裁決の方法、委員会の構成と任務、財務、会員選挙の方法、決議、議事の順序並びに改正などが詳しく決められています。

ロータリー・クラブは、その管理主体はクラブ理事会であります。RI 加盟クラブとして、綱領を遵守し、クラブ定款・細則に則って運営されるものであり、クラブ会員は入会金と会費を支払うことによって、綱領の中に示されたロータリーの原則を受諾し、クラブの定款・細則に従い、その規定を遵守しなければなりません。

クラブ定款は RI より手続要覧などに標準クラブ定款として、クラブ細則は推奨して紹介されます。規定審議会(2004 年)以降、2006 年には CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)に基づくクラブ細則が、追加して提供されました。

5. クラブへの入会

会員を増強して奉仕の仲間を増やすためにも、クラブ入会の手続をよく知って頂く必要があります。新会員の入会には、クラブ正会員からの書面による推薦が必要ですが、他クラブからの移籍会員や、他クラブでの元会員は元クラブからの推薦でもよいことになっています。素質のよい会員を迎えるには、クラブ細則に定められた各段階を忠実に守ることが大切です。推奨クラブ細則に従って入会手続を簡単に説明しましょう。

1. 何よりも、日頃から未充填職業分類を念頭に置いて、入会候補者の物色を心掛けることが肝要ですが、推薦人として責任の持てる候補者以外は絶対に推薦しないことが鉄則です。正会員が被推薦者の氏名を、クラブ幹事を通じて、書面をもって理事会に提出します。候補者の方から入会を希望してきた場合を除いて、第4段階までは候補者には機密に事を運ばなければなりません。

2. 理事会は被推薦者がクラブ定款の職業分類と会員資格の条件を満たしていることを確認します。この際、クラブ理事会は会員選考・職業分類委員会から審査報告を受けるのもよいでしょう。

3. 理事会は推薦状の提出後、30日以内に承認・不承認を決定し、クラブ幹事を通じて推薦人に通告します。

4. 理事会の決定が肯定的であった場合は、被推薦者にロータリーの目的や会員の特典と義務について説明します。この説明の後で、被推薦者が会員申込用紙に署名し、その氏名と職業分類をクラブに発表することの承諾を求めます。

5. 被推薦者の発表後、7日以内に書面による異議申し立てがなければ、入会金を納めることにより会員になります。異議申し立てがあっても、次の理事会の票決で入会が承認されれば、入会金の納付により会員となります。

6. 感動的な新会員の入会式と、オリエンテーションを行い、会員証を発行してRIに報告します。

最も重要なことは、新会員がクラブに溶け込めるように最大の努力をすることであり、会長は新会員を援助する会員1名を指名し、新会員をクラブ・プロジェクトや行事に参加するよう勧めます。入会后間もない時期の新会員に対するきめ細かな配慮が、将来の退会防止に大きく役立つでしょう。

6. ロータリー・クラブ会長

国際ロータリー(Rotary International、以下 RI)は、RI定款およびRI細則に従って結成された現に存在するロータリー・クラブ(以下、クラブ)によって構成されています。クラブの理事会はクラブの管理主体です。クラブ会長は、クラブを代表すると同時にクラブ運営管理の責任があります。クラブ会長、各役員および各理事は、いずれも、本クラブの瑕疵なき会員でなければなりません。クラブ会長は、クラブ全体を指導する能力を持ち、かつ、会員の尊敬と信頼を有する者となっています。

そして、会長エレクト研修セミナー(PETS)と地区協議会(地区協)に会長エレクトとして必ず出席し、かつ、いつでもクラブを指導し、クラブの事務を執るのに必要な時間と労力を捧げ得る者となっています。また、任務に就く前の年度に、会長職の実習期間を通じて与えられた役割を務めたことがある者、自己のクラブの理事あるいは一つまたはいくつかの主要な委員会の委員もしくはクラブ幹事を務めたことがある者、1回以上地区大会に出席したことがある者、そして、自己のクラブの定款・細則に関して役立つ知識を有する者といった要件を備えていることとなっています。

なかでも、PETSと地区協への出席は会長就任の必須条件です。申すまでもなく、クラブの運営はクラブ会長のロータリーに対する識見と熱意によって左右されます。ポール・ハリスは次のように述べています。すなわち「世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界と共に変化する心構えがなければなりません。ロータリー物語は何度も書き換えられなければならないでしょう。」と。

クラブ会長は、激動する社会の変化に応じた奉仕活動を行うために、地域社会、国際社会の動向を的確に把握し、ニーズを分析して、効果的な奉仕活動を実行するようクラブを指導することが望まれています。そのために、自己のクラブ効果的なクラブとするためには、四大奉仕部門を踏まえ、能率的なクラブ管理を基盤として、会員を維持し増加すること、成果のある奉仕プロジェクトを実施し、ロータリー財団への支援を行い、クラブ・レベルを超えたクラブ指導者の育成を心がけ、実行することが要請されています。

7. クラブの週例会

「今年度は、楽しい例会にしたい・・・」ほとんどのクラブ会長さんは、そう思い、努力をしていると思います。しかし、あっという間に1年が過ぎ、果たして何回楽しい例会を行えただろうか。次年度もほとんど同じ様に過ぎる。たった1時間の例会に、クラブ会員は出席します。楽しい例会にする責任は、会長さんにあります。そして、それを支えるプログラム委員会です。それでは、会員が満足する「楽しい例会」とは、どのような例会でしょうか？

- それは、会員一人ひとりが例会に参加していると感じる例会です。
- そして、会員一人ひとりが実際に参加する例会にすることです。
- また、ロータリー情報、職業情報を常に伝える例会にすることです。
- それによって、会員にとって、役に立つ例会にすることです。

そのような例会にするには、具体的に何をするのか、どうするか・・・ということが大変重要です。

例会プログラムについては特別月間などを考慮して、6カ月間の大まかな例会プログラムを作成します。そして、次は、3カ月間のより具体的なプログラムを委員会と打ち合わせながら作ります。具体的なプログラムの元になるのは、すべての小委員会(クラブによって異なりますが最低15以上あると思います)の活動です。その全小委員会が1カ月又は最低2カ月に1回、必ず委員会を開いてもらいます。会長が願いをし、実行してもらいます。

委員会の会議の内容は、1. 委員会の役割、何をやらなければならないか を委員の間でシェアする(ロータリー情報)、2. 奉仕プログラムに会員が参加するために、委員会として、何時、何を、どの様に行動していくかを討議する。3. 委員会以外のロータリー関連や職業・仕事関連、経済関連、その他の話題を話し合い、委員同士理解しあう機会とする。(少人数が良い) そして、委員会で、討議したこと・話題に出たこと・・・感想などすべての事柄について、例会で報告をし、意見を聞くなどして例会を組み立てていけば、楽しく役に立つ例会になっていくと思います。

8. クラブ協議会

クラブ協議会は、クラブの主要な計画作りを相談するための組織会合で、クラブのプログラムと活動もしくは会員教育について協議するために開かれます。クラブ協議会では、長期計画の立案、委員会活動の調整、クラブ計画がどのように正確に実施されていかなかの認識、創意に溢れた解決策および活動を刺激する打ち解けた討議、ロータリーとプログラムに関する継続的な教育、クラブの強い点、弱い点の定期的な検討が可能となります。

また奉仕プロジェクトや活動、会員増強、退会防止、地区大会や他の会合への出席などについて話し合い、さらに会員の教育の場となり、会員の奉仕活動への関心を喚起します。クラブ協議会は、クラブ役員・理事・委員会委員長を含むクラブ会員の会合で、クラブの全会員の出席が要請されます。クラブ協議会では、クラブ会長、あるいはその指名を受けた役員が主宰します。クラブ協議会は、多くのクラブで毎月開催されていますが、1年間に次にあげるスケジュールで少なくとも4回、できれば6回開催するのが最も望ましく、効果的であるといわれています。

1. 地区協議会直後3週間以内(7月1日以前):地区協議会で作成され、提案された計画を始め、どのようにクラブはRIテーマと強調事項を組入れるかについて説明し、検討を行い、討議する。会長エレクトがクラブ協議会を主宰します。
2. 7月1日以降:年度の計画を討議し、採択します。
3. 公式訪問の2週間前:ガバナーの公式訪問の2週間前のガバナー補佐のクラブ訪問の際に、クラブ協議会を行います。
4. 公式訪問の間:クラブの状況をガバナーと討議します。
5. ロータリー年度の間(1月/2月):クラブの目標に向けての進展状況を検討し、完了すべき計画を決定します。
6. 地区大会の後:この協議会で出されるアイデアおよび示唆は、クラブ計画を完了に導くのに役立つよう実施することができます。

9. 地区ガバナー

地区ガバナーは、就任日の24カ月以上30カ月以内に出選されます。地区ガバナーは、RI理事会の方針とRI定款細則に従って、地区内クラブを直接監督します。地区ガバナーは、RI役員として、RI理事会の総括的管理下に置かれます。地区ガバナーは、RIの管理に沿って、地区内クラブがロータリーの奉仕の理想を遂行するよう援助します。地区ガバナーは、任期中、新クラブの結成と会員増強を奨励し、ロータリー財団プログラムへの参加と財政支援を推進します。

また、地区大会を計画、主催します。ガバナー月信を発行します。地区ガバナーは、ガバナー・エレクトのときに、毎年2月頃、米国で開催される国際協議会に出席しなければなりません。その後2月中に地区チーム研修セミナーを開催し、3月中に、会長エレクト研修セミナー、4月もしくは5月に地区協議会を開催します。ロータリアンが地区ガバナーに指名される資格条件は何でしょうか？

まず、クラブの正会員でなければなりません。就任までに少なくとも7年間ロータリー・クラブに在籍しなければなりません。1年間ロータリー・クラブ会長を務めていなければなりません。2004年規定審議会の決定により、新クラブの加盟認証日から6月30日までの期間が6カ月以上あれば、その創立会長は、ガバナーに指名される資格があります。また、ロータリーについての実際的知識があり、管理能力には定評があり、かなりの時間とエネルギーをロータリー責務の遂行に費やす意思がなければなりません。

地区ガバナーは、年度終了後3カ月以内に地区の財務報告を、地区内各クラブに提出しなければなりません。財務報告は、資格を備えた第3者の会計士が点検したものでなければなりません。監査は不要になりました。その年次報告は、すべての地区内クラブの代表者が出席するような地区会合で採択します。このような地区会合が開かれない場合、次年度の地区大会で採択します。

10. 地区大会

年次地区大会の目的は、親睦活動、感銘を与える講演、および地区の問題並びに国際ロータリー全般に関する事柄の討議を通じて、ロータリーのプログラムを推進することにあります。地区大会はロータリーのプログラム、および地区やクラブの活発な活動を最高によく見せる展示場のようなものです。地区大会は地区内の会員基盤を維持し、増強を図る良い機会であることを認識し、士気を高揚する方法で情報を提示し、かつロータリーの親睦を深めるような雰囲気を作り出さねばなりません。また、地区大会では、3年に一度開催されるRI規定審議会で審議される立法案を提出する権限もあります。次回の規定審議会に提出されるすべての立法案は地区で審議の上、承認されたことを明記した証明書を添付することになりました。

地区大会には次のことを**推奨**されます。

- ・ 会期は丸2日をかけ、3日を越えないようにする。
- ・ 多くの会員の参加を高めるため、グループ討論を含める。
- ・ ロータリーおよびロータリー財団に関する内容に重点を置いた均衡の取れたプログラムを含めること。
- ・ 地区大会決議を検討すること。
- ・ 新しいロータリアン、地区大会に初めて出席したロータリアン、クラブ会長、次期クラブ役員を紹介すること。
- ・ プログラムにおいて、ロータリー活動に参加してきた人たちを最大限に起用すること。
- ・ 事前登録を奨励して、次年度の地区大会を推進するセッションを含めること。
- ・ 費用を低く抑え、すべてのロータリアンが出席できるようにすること。
- ・ 地区大会と他の行事の日程が重なるのを避けること。
- ・ 配偶者の行事やその他の行事が重ならないように日程を調整し、登録者全員が本会議に出席するよう奨励すること。
- ・ クラブおよび地区プロジェクトを[友愛の広場]などに展示すること。
- ・ 会長代理の経験を見分け、適宜、討論その他のセッションに関与してもらうこと。
- ・ 新しいロータリアンのために特別オリエンテーションを提供する。

11. ロータリーの友

なぜ、ロータリーの雑誌を読まなければならないのでしょうか？ その答えを出すためには、まず、ロータリーの雑誌に何が書かれているのかを知る必要があります。

アメリカ・エバンストンにある国際ロータリー (RI) 世界本部で編集・発行している『THE ROTARIAN』は、ロータリー唯一の機関誌で、ここにはRI会長の考えやRIでどのような活動に取り組んでいるのか、といった記事が掲載されています。また、世界中のロータリアンの活動を知ることができます。

このほかにロータリーでは、全世界で 31 の地域雑誌が発行されています。『ロータリーの友』はその地域雑誌の一つで、日本のロータリアンのために日本語で発行されています。地域雑誌は、『THE ROTARIAN』から、指定されたいくつかの記事を翻訳して掲載する義務があります。『ロータリーの友』には「RI指定記事」と表示しています。「RI指定記事」は、全世界のロータリアンで共有する必要のある記事で、各クラブの基本的な活動に関係ある記事が多く見受けられます。

一方、地域雑誌には、発行している国または地域のロータリー活動や文化を反映した記事も掲載されています。『ロータリーの友』には、日本国内のロータリークラブや地区の活動、ロータリアンの意見が掲載されています。

ロータリーには、さまざまなロータリアンがいます。さまざまなロータリークラブがあります。ロータリアンは、毎週の例会で、同じクラブの会員同士、情報交換をしたり、友情を深めたりすることができます。地区大会やそのほかのさまざまな機会に、地区内の状況を知ることができます。しかし、国内すべてのロータリークラブを実際に訪問したり、それらのクラブの会員と意見交換をしたりするのは、容易なことではありません。まして、全世界のロータリアンとなるとなおさらです。

『ロータリーの友』を通して、RI会長の方針やRIの動静を知るとともに、日本全国、全世界のロータリークラブ、ロータリアンを訪問しましょう。ロータリーの世界が広がります。皆さんは、もう、最初の問いの答えを見つけることができたに違いありません。

12. ロータリー米山奨学事業のあらまし

(1) 歴史・沿革

1. ロータリー米山奨学事業とは

(財)ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリー・クラブ会員の寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学財団です。

1967年に財団法人として設立の許可を受け、これまでに世界104の国・地域出身の12,707人(2005年4月現在)におよぶ外国人留学生を支援し、今日では、事業規模と採用数において、民間で最大の奨学団体(*)となっています。

(*) (財)助成財団センター発表の**助成等事業費上位100財団(2003年度)**において、米山奨学会は年間助成額:17億円で第3位、民間主導型財団では第1位となっています。

2. 世界の平和を願って始まった奨学事業

米山奨学事業の歴史は、50年以上前にさかのぼります。

敗戦後の復興が続く1952年、日本のロータリーの礎を築いた米山梅吉氏の功績を記念して、東京ロータリークラブによって「米山基金」が設立されました。日本のロータリーが国際ロータリーに復帰して3年後、米山梅吉氏がそれを見ずして、奉仕に捧げた生涯を終えてから6年後のことです。米山梅吉氏が生前、東南アジアに深い関心をもっていたことから、ロータリー財団の国際奨学制度に模して、アジア諸国から奨学生を招致しようというのが基金設立の目的でした。そして、2年にわたる募金活動の後、1954年にタイから第1号奨学生となるソムチャード氏を招聘したのです。氏は、東京大学で養蚕学を研究し、帰国してからはタイの蚕糸局に入局、タイシルクの増産に貢献しました。

米山奨学金の創設の目的は、日本が再び戦争の過ちを繰り返さない誓いと、世界に“平和日本”の理解を促すことにありました。留学生が平和を求める日本人と出会い、互いに信頼し合う関係を築き、「世界の懸け橋」となることを願ってつくられたのです。

3. 日本のロータリー独自の「多地区合同奉仕活動」として大きく発展

東京ロータリー・クラブ単独の「米山基金」は、ソムチャード氏を含めて3名の奨学生に奨学金を支給して終結しました。しかし、米山奨学事業そのものは、当時の日本のロータリー指導者たちに共感と賛同をもって受け入れられ、「ロータリーの国際奉仕として最もふさわしい企画(1956年の第60地区大会決議文より)」として、全国のロータ

リー・クラブの共同事業へと発展的に継承されたのです。

“月に煙草1箱を節約して”を合言葉に、全国に寄付が呼びかけられるとともに、1957年には、財団化を念頭に、全国規模の「ロータリー米山奨学委員会」が組織され、翌年には新組織のもとで、全国の大学から8人の奨学生が採用されました。

10年におよぶロータリアンの献身的な尽力の結果、文部省(当時)より念願の財団法人の許可が下り、1967年7月1日に、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。今日にいたるまで、日本の全地区の多地区合同奉仕活動として、他国に類を見ない大規模な国際奨学事業として発展を続けています。2004年11月の国際ロータリー理事会では、長年、日本のロータリアンがこの奨学活動を通じて世界理解と平和に貢献していることに、称賛が送られました。

(財)ロータリー米山記念奨学会

13. ローターリー米山奨学事業のあらまし

(2) 米山奨学金制度の特徴

1. 米山奨学金の支給状況

2005年度の米山奨学生採用数は801人(2005年4月末現在)です。そのうち、博士課程は367人(延長者含む)、修士課程は318人で、大学院生が全体の約86%を占めています。学部生は103人と1割強で、残り13人は、台湾・韓国からの研究員招聘や元米山奨学生の再留学、発展途上国の農村・地域指導者養成など、特別米山奨学金と呼ばれるプログラムの採用者です。

修士・博士課程の大学院生への奨学金額は月額14万円、学部生への奨学金額は月額10万円で、奨学団体の中では比較的高額の水準です。

なお、寄付金収入の減少により、2005年の採用数は前年に比べて2割削減、奨学金額も平均7%削減されています。

2. 米山奨学生はこのように選ばれます

～地域の大学と連携し、ロータリアンの“目”で奨学生を選ぶ指定校・大学推薦制度～

ロータリアンが支援するにふさわしい“優秀”な奨学生を選ぶ募集・選考システムとして、2001年10月から、指定校・大学推薦制度が導入されています。これは、地区が指定する大学から、米山奨学生にふさわしい学生を候補者として推薦してもらう制度です。

大学から推薦された候補者を、各地区のガバナーや米山理事、地区米山奨学委員長などで組織する地区選考委員会で面接して、米山奨学生を決定します。

米山奨学生に求められる“優秀性”として、①学業優秀であること、②異文化理解に対する積極的な姿勢、③高いコミュニケーション能力、の3つを重視しています。

3. 「世話クラブ・カウンセラー制度」による留学生の心のケアを重視

ロータリー米山奨学金制度の最大の特徴は、経済的な支援だけでなく、「世話クラブ・カウンセラー制度」を設けて、奨学生の精神面のケアを図っていることです。親善・交流を通じた国際理解を推進する米山奨学事業の要であり、ロータリー・クラブという地域密着の組織だからこそできる重要な特性といえるでしょう。

奨学生には、大学の所在する地区のロータリー・クラブから世話クラブが選ばれます。さらに世話クラブの会員の中から、専任のカウンセラーが1人付いて、奨学生の日常の相談に乗ったり、文化体験の案内役や交流の橋渡しに努めたりして、奨学生の

日本での生活が心豊かなものになるように配慮しています。大学の指導教員と連絡を取り合ったり、自宅に奨学生を招いて家族ぐるみで交流したりする例も多くあります。

奨学生には毎月1回世話クラブの例会に参加することが義務づけられており、奨学金もそこで手渡されます。そのほかにも、奨学生には、ロータリー・クラブの例会で母国のことや自分の研究についてスピーチしたり、クラブ・地区の社会奉仕活動、交流会や研修旅行に参加したりと、ロータリーの活動を通じて、日本文化や地域社会と触れ合うさまざまな機会が提供されます。

「世話クラブ・カウンセラー制度」は、国費や他の奨学金制度には無い魅力として、奨学生はもとより、政府・大学などからも注目されています。

(財)ロータリー米山記念奨学会

14. ロータリー米山奨学事業のあらまし

(3) 寄付金と表彰制度

1. 財政状況

米山奨学事業はロータリアンによって支えられています。奨学事業費は年間 15 億円にのぼり、いただいたご寄付はすべて奨学事業のために使われます。日本のロータリアンが、助成額全国3位を誇るまでに育て上げた米山奨学事業ですが、厳しい経済環境と会員数の減少により、寄付金収入は減少の一途をたどっています。

1999 年度から 2004 年度までは、寄付金の減少分を 特別積立金を活用することで補ってきましたが、2005 年度にはついに奨学生採用数と支給額の引き下げに踏み切りました。

今後は、これ以上特別積立金を取り崩さないよう、寄付金収入に見合った奨学事業を目指し、事務費削減や補助費の見直しなどを行い、財政の健全化に努めています。

2. 寄付金と免税の優遇措置

寄付金には普通寄付と特別寄付の2種類があります。

普通寄付金は、全ロータリー・クラブから毎年1月1日および7月1日の会員数分のご寄付をいただいています。寄付行為(財団法人における定款)の「寄付金受領に関する施行細則」に、当会を援助する全ロータリアンから定期的に受領するものと定められ、当会奨学事業の安定的な財源となっています。1人当たりの寄付額は各地区の目標額を達成するため、各クラブで定めていただきます。1967年の財団化当初は「1人当たり月額50円以上(年額600円以上)」で始まりました(当時の大卒初任給: 26,150円)。現在は全国平均で年額4,000円となっています。平均金額を上回るようご協力をお願いいたします。

特別寄付金は、個人、法人またはロータリー・クラブから、普通寄付金以外に任意で寄付されるものです。特別寄付金には表彰制度が設けられています。また、個人、法人のご寄付に対しては、所得税および法人税法上の優遇措置が受けられます。あわせて遺言による特別寄付に対しても、相続税法上の優遇措置を受けることができます。

3. 表彰制度

特別寄付金に対する表彰制度は 1972 年から始まりました。「累計で高額の支援を重ねている会員を特に表彰すべき」との地区からの要請に応じて「米山功労者賞」を

設け、地区大会で盾を増呈することにしたのを機に、恒久的な制度として制定されました。

個人寄付に対する「米山功労者」表彰は、ロータリー財団のポール・ハリス・フェロー(米貨1,000ドルで表彰)にならい、当時の為替レートで同額に相当する累計30万円を第1回表彰とし、以降30万円ごとに表彰を重ねる形でスタートしました。しかし、昨今の経済状況を鑑み、米山功労者をより身近な目標としていただけるように、2003年7月より、累計10万円で第1回表彰とする制度に改定しました。その後も10万円ごとに表彰され、第2回表彰(累計20万円)から「米山功労者マルチプル」、第10回表彰(累計100万円)から「米山功労者メジャードナー」と称号が変わっていきます。なお、従来の「米山ファンドフェロー」(累計15万円)は廃止となりました。

また、法人寄付に対しては、累計35万円で「米山功労法人」、累計が100万円に達したとき「米山特別功労法人」として表彰され、クラブには「米山功労クラブ」「クラブ創立記念特別寄付」「達成クラブ」などの表彰があります。

(財)ロータリー米山記念奨学会

15. ロータリー米山奨学事業のあらまし

(4) 米山学友の活躍

1. 世界で活躍する米山学友

ロータリー米山記念奨学会では、「世話クラブ・カウンセラー制度」によって、心の通った奨学事業を実現し、これまでに1万人を超える優秀な奨学生を世に送り出してきました。日本のロータリアンを通じて、ロータリー精神に触れ、心をはぐくんだ米山学友は、いま世界を舞台に活躍しています。

<大使になった米山学友>

崔 相龍(チェ・サンヨン)氏【韓国／1969-72／東京大学大学院／東京日本橋 RC、東京城西 RC】は、2000年2月から2年間駐日韓国大使を務めました。現在は、高麗大学教授です。1998年2月の金大中大統領訪日時には、日韓共同宣言をつくる過程で政治学者として貢献するなど、新しい日韓の交流に大きな役割を果たしています。

<ガバナーになった米山学友>

第 3490 地区(台湾)の 2005-06 年度ガバナーとして、米山学友の許 國文氏【1975-77 年度奨学生／徳島大学医学部／世話クラブ：徳島 RC】が選出されました。許氏は、台湾・羅東市にある羅東博愛病院の副理事長で、羅東西ロータリークラブに所属しています。

2005年2月下旬にアナハイムで行われたRI国際協議会では、日本人以外でただ1人、日本語セッションに参加。積極的に議論にも加わって、日本のガバナー・エレクトとの交流を大いに深めたとのこと。

なお、米山学友のガバナー誕生は、韓国の林 隆義氏【1997-98 年度第 3650 地区 P. G. 】に次ぐ2人目で、台湾では初の快挙です。

<日本政府より叙勲を受けた米山学友>

在スリランカの米山学友、チャンドラシリ・フェルナンド氏【1982-84 年／東北大学大学院／仙台西 RC】は、平成 15 年度秋の叙勲で、日本政府より勲三等旭日中綬章を贈られました。フェルナンド氏は、国費留学生として来日後、1982-84 年に米山奨学金を受けて、東北大学大学院にて公法学を学び、修士号を取得。帰国後は、スリランカ警察庁に入り、現在は警察庁長官の重職にあります。日本・スリランカ間の警察協力推進に寄与したほか、コロンボ市の治安が悪化した際には、在留邦人の保護のために情報提供や警備指導に尽力するなど、まさに母国と日本との懸け橋として活躍しています。

2. 拡大・進化する学友会活動

奨学期間を終えてからも、ロータリーとの交流を継続したいと希望する米山学友は少なくありません。このような学友の希望と、地区のロータリアンの支援によって、すでに国内に 23、海外に2つ(台湾・韓国)の計 25 の米山奨学会学友会が設立されています。

学友会活動は、地区と連携した親睦・交流活動が主体ですが、最近では、学友らが自分たちの力を生かして、地域社会に貢献しようという取り組みも増えています。米山記念奨学会は、このような学友会の発展的な活動を歓迎し、積極的に支援していく方針です。

(財)ロータリー米山記念奨学会

16. ロータリー米山奨学事業のあらまし (5) 米山奨学事業の変革

1. 2006 年度制度改編のために

米山奨学金制度は、およそ5年ごとに、ロータリアン対象のアンケート調査(基礎調査)を実施して、制度見直しの基礎資料としています。

第1期米山奨学事業基礎調査は1999年に行われ、その結果を基に、多くのロータリアンの論議を経て、「指定校・大学推薦制度」などが確立されました。

第2期基礎調査は、2006年からの制度改編を前提に、2003年に実施されました。1,000人のロータリアンの声を集めたこの調査結果をもとに、米山奨学事業フォーラムを開催して、地区代表者に討議を重ねてもらい、既存制度の検証と新制度の検討を進めました。2005年6月の理事会・評議員会での最終協議を経て、2006年より新制度が施行されます。

2. 2006 年からの新制度案

① 現地募集採用型奨学金の試行 ～日本留学のチャンスを提供し、“懸け橋”を育成～

現行の米山奨学金制度では、すでに日本の大学・大学院に在籍している留学生を対象としています。今回の制度改編プロセスでは、「日本に来ることさえできない人たちにも日本留学のチャンスを与えたい」との声が多く聞かれました。日本に留学しやすい近隣の国や、先進国の人だけでなく、経済的にまだ発展途上で、なかなか日本に留学するチャンスのない国の優秀な人材を支援したいとの希望であり、それを実現するプログラムが、現地募集採用型奨学金の試みです。

このプログラムでは、いわば“丸抱え”で日本に呼び寄せることと引き換えに、奨学期間後は必ず帰国して母国の力となり、同時に日本と母国との友好の懸け橋となることを条件とする予定です。海外からの帰国組が母国で活躍できる環境が整っていることも候補国の条件となり、現在のところ、試験的な実施の候補国としては、ベトナムが有力です。

② 地区の裁量で、特色ある留学生支援が可能に

ロータリーの特性を生かした「地域密着型奨学事業」を推進することも、2006年度制度改編の目的です。そこで、地区への奨学生割り当て数の一部に、「地区裁量枠」を設けることを提案します。

地区奨励奨学金(仮称)を新設して、この枠内で、大学・大学院以外の教育機関、例えば、短期大学や高等専門学校、一定の要件を満たした専修学校や日本語学校などで学ぶ留学生を支援の対象とすることを可能とします。近隣に大学がないために、米山奨学生との接点が少なかった地域にも世話クラブを拓げることができ、また、奨学金額は修士・博士課程の半額とする代わりに、1人分の枠で2人採用することができます。

どのような留学生を支援するか、現行制度以上に地区の自主性を尊重しようというのが提案の目的です(奨学金額は、理事会・評議員会で決定される全国统一のものとなります)。

ロータリアンにとって、常に“より身近な奨学事業”であるように、米山奨学事業はこれからも改革と見直しを進めてまいります。新しい米山奨学事業の展開に、引き続き温かいご支援とご協力をお願いいたします。

(財)ロータリー米山記念奨学会

17.「ロータリー財団について」

(1) 歴史

ロータリー財団とは

ロータリー財団の正式名称は、国際ロータリーのロータリー財団です。国際ロータリーとロータリー財団に違いがあるでしょうか。ロータリーの奉仕の理想を信奉するてんでは国際ロータリーもロータリー財団も一体のものです。

奉仕の理想については、RIの公式文献で定義している例はあまりないのですが、公式名簿(Official Directory)の裏表紙には、「ロータリー・クラブは、場所を問わず一つの基本的理想を持っている。それは奉仕の理想で、他の人々を思いやり、他の人々の役に立つことである。」と書かれています。又、ロータリー100周年を記念して発刊された「奉仕の一世紀、国際ロータリー物語」では、1987-88年度国際ロータリーの会長のチャールズ・ケラー氏がこう言っています。「奉仕の理想は人々をつなぐ真の絆です。奉仕とは、単に良いことをするだけでなく、人々に役に立つことです。世界では人々が異なる言語を話し、異なる食事をし、異なる衣服を着て、異なる宗教を信奉しています。こうした人々を結び付けるには、強力な絆が必要です。ロータリーでは、その絆が超私の奉仕という理想なのです。」他の人々の役に立つ具体的活動をしているのがロータリー財団です。まず、ロータリー財団の創設から現在までを振り返ってみます。

歴史

1917年、米国ジョージア州アトランタで開催された国際大会で、RI会長アーチ・クランプ(ロータリー財団の父と呼ばれる6人目のRI会長)の「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他、社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と提案しました。数ヵ月後に、「人間を育てる教育のための奉仕基金」アーチ・クランプ基金が創設されました。同年創立されたライオンズクラブの募金活動に刺激されたとも考えられ、何の根拠もなく極めて唐突であったため、募金も思うように集まらず、最初に寄せられた寄付金は、米国ミズーリ州カンザス・シティ RC からで26ドル50セントであった。(クランプRI会長への記念品購入資金といわれています。)

1923年、関東大震災に際してロータリー財団から多額の義捐金が寄せられたという説に関しては、当時基金にはそんなに多額の金が集まっていたとは考えられず、RI本会計の中に当時からあった災害援助金から支出されたと解釈する方が妥当かも知れません。

1928年ロータリー財団となり、1931年、信託宣言がなされましたが、国際間の緊張が続いた時期のためか、これと言った活動記録は残っていません。1945年、第二次世界大戦終了に伴って、

①高等教育のためのロータリー財団奨学金制度

②各国の国民の間に国際理解と友好関係を進めることを目的とした、確実に効果的なプロジェクトの育成

③戦争や災害により、破壊や損害を被ったロータリアンと家族のための緊急時の救済方法の準備を目的として本格的な活動が開始されました。

■財団の目標・目的の変遷(1945～1984年)

＜ロータリー財団の目標＞(1945年 Rotary Foundation C.)

1. 高等教育のためのロータリー財団奨学金制度の拡充。
2. 各国の国民の間に国際理解と友好関係を進めることを目的とした、確実に効果的なプロジェクトの育成。
3. 戦争や災害により、破壊や損害を被ったロータリアンと家族のための、緊急時の救済方法の準備。

ロータリー財団奨学金制度が初めて実施されたのは1947年であり、ポール・ハリスの逝去を機に寄せられた371,143\$の寄付金を基に、18名の大学院生に奨学金が支給されることになりました。当初は、高等教育を受けさせるための奨学金制度として発足したのですが、1959年からは国際理解と友好を深めるための奨学金とその目的が変更されました。1964年からは博愛、慈善に、さらに1984年からは人道的なプロジェクトが加わり現在に至っています。以下、現在に至るまでの[財団の目標]の変遷を抜粋してみます。

＜財団の目標＞(1955年)

ロータリー財団の目標は、高等な学術研究のためのロータリー財団奨学金の増大を含み諸国民の間に良き理解と友好関係を進めることを目的とする実質且つ効果的な企画を育成することにある。

＜財団の目的＞(1959年)

ロータリー財団の目的は、国際的理解のためのロータリー財団奨学金を含む、確実に且つ効果的な企画によって各国の国民間に理解と友好関係を増進することにある。

＜財団の目的＞(1964年)

ロータリー財団の目的は、博愛、慈善、教育的性質の、確実に且つ効果的な企画によって各国の国民間に理解と友好関係を増進することにある。

＜財団の目標＞(1984年)

ロータリー財団の目標は、博愛、慈善、教育または人道的という特質をもつ明確かつ効果的なプロジェクトの促進を通じてさまざまな国の国民のあいだに理解と友好的関係を助長することである。

我々は、この財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきです。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動になろうとしています。

ロータリーの源流より 杉田 博(記)

18.ロータリー財団について

(2)「財団のプログラム」

ロータリー財団のプログラムには、ロータリー財団プログラムには、教育的プログラムと人道的補助金プログラムとポリオプラス・プログラムの3つがあります。

1.教育的プログラムについて

①国際親善奨学金

- 1 学年度の国際親善奨学金 US\$25,000
- マルチイヤー国際親善奨学金 US\$12,500
- 文化研修のための国際親善奨学金 3ヶ月 US\$ 12,000 6ヶ月 US\$ 19,000
- 低所得国のための奨学金基金プール

②大学教員のためのロータリー補助金

高等教育の教員が低所得国の大学で教務につくための補助金。低所得国における高等教育を充実させる。

- ロータリアンである教員にも支給されます。
- 3-5ヶ月 US\$ 12,500、6-10ヶ月 US\$ 22,500

③世界および紛争解決分野における国際問題研究のためのロータリーセンター

指定された7大学における、世界および紛争解決分野における国際問題研究のためのロータリーセンターで、2年間の修士課程を学ぶプログラム。70名の学生に支給される。

国際親善奨学生は一般からの公募であり、ロータリアンの子弟や関係者は対象から除外されます。[国際親善奨学金]の名称からも伺えるように、あくまでもロータリーが派遣する親善大使として、国際親善を目的とする奨学金制度です。

ロータリー国際理解賞を受賞された国連高等弁務官の緒方貞子さんが、日本から送り出された財団奨学生の第2号であることから、この制度がいかにより有意な未来に対する投資であるかが理解頂けると思います。

ロータリー財団奨学金候補者は、優秀な学生、技術者ないし教師であるとともに、「親善使節」となることのできる素質をもつ者でなければなりません。自国と受入国の国民間の友情と理解の効果的なかけ橋を務めるために、候補者は親しみやすい外向的な性格と、異なる文化をもつ国民の態度および生活様式に対する好意的関心と、自己の考えを即座に効果的に伝える能力とをもっていなければなりません。また、自国の歴史、文化、地理、時事問題についても十分な知識をもっていなければなりません。

候補者は特に次の諸条件に該当しなければなりません。

- 1) 学業または専門的分野において、あるいは研修または実務において高水準を保持してきた者で、かつロータリー財団奨学生として顕著な成績を上げうる可能性を示す者。
- 2) 指導性、独創力、熱意、適応性、円熟、目的の誠実さを実証すること。
- 3) 文化研修のための奨学生を除き、申請時において、留学国および指定された教育機関で用いられている言語に熟達していなければならない。文化研修のための国際親善奨学生は、留学国の言語について、大学1年または同等の教育水準の学力を有すること。
- 4) 他国における厳しい長期の研究と旅行に堪えうること。

④研究グループ交換(GSE)

事業または専門職務の青年男女を二国間の地区レベルで交換派遣する制度であり、25才から40才までの青年4名とチーム・リーダー1名で構成されます。期間は4週間から6週間の間とされ、チーム・リーダーはロータリアンが務めます。同一年度に交換するのが原則ですが、地区間の合意が得られれば送り出しと受け入れを2年間に分割することも可能です。なお、チーム・リーダーの配偶者の同行は認められません。

二国間の旅費はロータリー財団のWFで賄われます(国際ロータリー旅行サービスRITSを通じて購入)が、滞在中の旅費や食費等は地元ロータリアンが負担します。財団管理委員長の許可を得れば、ロータリー・クラブのない国とも交換することが可能となり、DDFを利用すれば、複数のGSEを実施することも可能です。

なお、国際協議会のプログラムの中に、ガバナー・エレクト同士が交換先を探す場が設けられています。

ロータリー財団研究グループ交換は次の目的のために計画された教育的プログラムである。

- 1) 事業および専門職務に携わる優秀な青年を、他国において計画準備された研究討論プログラムに参加させることによって、その国とその国民並びに諸施設とを研究する機会を与えるため；
- 2) 善意の人々が、友好的雰囲気の中に相会し、語り合い、生活を共にして、相互の問題や抱負を理解するようになり、かくして個人的接触を永続する友情へと成熟させることにより国際理解を増進するため；
- 3) 研究グループのチームのために教育的プログラムを作成し、チームを歓待することによって、ロータリアンを、具体的、実際的かつ有意義な国際奉仕プログラムに参加させるため。

2.人道的補助金プログラムについて

①保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金

WCSプロジェクトが大規模のものに発展し、多数の人びとの長期間にわたる援助であり、かつ、自立自助を促す事業である場合に適用されます。対象は保健の改善、飢餓救済、自助活動を通じて開発強化を図る事業であり、具体的には、栄養の摂取、

基礎保健、食料生産、植林、識字率向上、職業訓練などがあげられ、補助金は100,000ドルから300,000ドルまでとなっています。

プロジェクトは、次の基準を満たすものでなければなりません。

- 1) 多数の人々に恩恵をもたらす。
- 2) 自助の性質がある。
- 3) 2ヶ国以上のロータリアンが多数関与する。
- 4) ロータリーが支援していることが明白である。
- 5) ロータリアンが推進し、管理し、実施する。
- 6) 補助金支給期間後は自立できる。

補助金使用の対象外

- 土地、建物の購入
- 建物の建築や改修(1998年より応急住宅・シェルター等を除外)
- 個人の給与、報酬、謝礼
- 高等教育活動、研究、自己開発

②3-H計画準備助成金

規模と影響の大きい3-Hプロジェクトの計画時に、WF から20,000ドルを上限として支払われます。

③マッチング・グラント

他国のロータリアンとの協力の下に実施される国際的な人道的奉仕プロジェクトを実施する際に、拠出資金の同額または半額をロータリー財団が補助するプログラムであり、次の基準を満たすものに支出されます。

- ニーズを抱える地域社会に恩恵を与える人道的な内容に取り組むもの。
- プロジェクトは新規のものであり、提唱国、実施国双方のロータリアンが直接関与しているもの。
- 提唱側、実施側共、2名以上の委員会を作って、6ヶ月毎の中間報告書とプロジェクト終了後2ヶ月以内に最終報告書を提出しなければならない。
- DDFに対しては同額、現金寄付に対してはその半額が、ロータリー財団から補助されます。

提唱地区 DDF	5,000ドル
提唱クラブ現金	2,000ドル
実施地区 DDF	1,000ドル
実施クラブ現金	1,000ドル
マッチング・グラント	7,500ドル
合計	16,500ドル

○小口マッチング・グラント(2,000ドル以下)、大口マッチング・グラント(2,001-25,000ドル)、大口マッチング・グラント(25,001-150,000ドル)に分類されています。

(注)小口マッチング・グラントは廃止され、2005_06 年度より補助金の額にして 5,000 ドルから 15 万ドルとなり、上限も下限も設定された。

④地区補助金

○3 年前の寄付金の 50%に基づいた DDF の 20%を上限として支払われます。

○従来の地域社会援助プログラム CAP、ヘルピング・グラント(パートナー地区またはクラブがない人道的奉仕プロジェクト)、輸送補助金、新人道的補助金がこれに該当します。

○マッチング・グラントを申請することはできません。

⑤個人向け補助金

○奉仕プロジェクトを計画または実施するロータリアン、配偶者、ローターアクター、有資格の財団学友の旅費を補助します。

○上限 US\$ 6,000

○従来のロータリー・ボランティア補助金、世界社会奉仕助成金、カール・ミラー助成金がこれに該当します。

○DDF を使用することはできません。

3.ポリオプラス・プログラムについて

①ポリオプラス補助金

全国予防接種日、ウイルス伝染の監視活動、その他の活動を含めポリオ蔓延国、近年発生国、高リスク国におけるポリオ撲滅の取り組みに対する支援を行います。

②ポリオプラス・パートナー補助金

社会動員活動、研究費、監視活動等のプロジェクト

19. ロータリー財団について

(3)「シェア・システム」

シェア・システムとは、財団寄付を再分配する仕組みで、3年前の地区の年次寄付の50%は地区財団活動資金DDFとして、地区が選択したプログラムに使用し、50%は国際財団活動資金WFとして、財団が実施するプログラムの資金となります。

■地区財団活動資金(DDF)に該当するプログラム

- ・国際親善奨学金
- ・マッチンググラントの提唱者側負担金
- ・3H補助金、追加GSE
- ・地区補助金(上限 DDF の 20%)、
- ・発展途上国の地区のDDF枠への寄付
- ・ポリオ・プラスへの寄付
- ・ポリオプラス・パートナーへの寄付
- ・ロータリー・センターへの寄付
- ・国際財団活動資金への寄付

■国際財団活動資金(WF)に該当するプログラム

- ・GSE補助金
- ・マッチング・グラント
- ・ロータリー平和プログラム
- ・災害救助補助金
- ・試験的プログラム資金

DDF の配分

○従来、DDF の配分と用途決定は直前ガバナー、ガバナー、ガバナー・エレクトの役割でしたが、2003 年度より、地区ロータリー財団委員会がガバナー、ガバナー・エレクトと協議して決定することになります。

○地区補助金委員会は、地区補助金を活用した地元、国際社会プロジェクトに関する下記の役割を行います。

- ①地区およびクラブが提唱する地区補助金申請書をチェックする。
- ②地区補助金を活用するようにクラブに情報提供、研修をする。
- ③地区ロータリー財団委員会と協力して、地区補助金を配分する。
- ④人道的プログラムに配分された DDF を記録し、使い切るようにする。
- ⑤提唱者が期日内に報告書を提出するように指導する。

ロータリーの源流より 杉田 博 (記)

20.ロータリー財団について

(4)「財団寄付」

11月といえば「ロータリー財団月間」ですね。この時期には、地区委員が各クラブに訪問し、ロータリー財団についてのスピーチをされるのが慣例になっております。財団への寄付方法には2つあります。年次寄付(毎年継続している寄付で、3年後のプログラムに寄付金が使われます。)と恒久基金(管理委員会が、世界理解と平和のためのロータリー財団基金に代わるものとして、新たに採択した名称です。)とがあります。

ロバート・バース元 R.I 会長は……

「年次寄付は、毎日庭に水をまき、花々に水分を供給するようなもので、恒久基金はいつでも水がまけるように、十分な水を用意している貯水池のようなものです」と分かり易く表現しています。

▼会員アクセスページ(Rotary Business Online)より財団への寄付履歴やキャッシュカードでの寄付が可能です。

<https://riweb.rotaryintl.org/ja/>

ロータリー財団寄付

・年次基金

元金が財団プログラムに使用される。寄付金は3年後にWF、DDFとして使うことができます。

・恒久基金

運用収益のみを財団プログラムに使用する基金です。

財団表彰

* ベネファクター…基金への寄付を資産計画に記入し財団に届け出るもので、寄付内容は遺言、保険、生存中収入プラン、1,000\$以上の無条件寄付などがあります。

* ポール・ハリス・フェロー…1,000\$以上の寄付。

* マルチプル・フェロー…二回目以上のポール・ハリス・フェロー

* 財団の友…1,000\$まで寄付をする意思で、最初の100\$を寄付。

* 冠名奨学金…150,000\$以上の寄付。特定のプログラムを指定できます。

* 大口寄付…合計10,000ドル以上寄付した者。

2005年度では、全世界の寄付額累計は約16億6000万ドルに達することになり、その内日本の寄付累計は推測3億4500万ドル(約20.8%)を占めている。いかに日本の貢献しているか数字で示されています。

その内、ロータリー財団恒久基金への全世界の寄付額累計は推測1億1500万ドルとなり、その内日本は2600万ドル(約22.6%)となります。また、日本の中の2650地区は寄付総額26,300,658ドルで当地区の貢献度は世界一である。

ロータリーの発祥のクラブであるシカゴ RC では、色々のイベントを考え、チケットのオークション、自分の家の夕食招待、ダンスパーティなどして目標を立て寄付を行っているようです。(2005 年月信 11 月号参照)

■RI とロータリー財団

RIとロータリー財団との関係について触れてみたいと思います。両者の関係を二頭立の馬車に例える人があるが、果してそうでしょうか。

ロータリーは哲学であり、その特徴は、二十世紀における最も進化した職業人の倫理基準を作り出した職業奉仕にあるといわれています。ロータリー・クラブは奉仕をする団体ではなく、奉仕をするロータリアンの団体です。

RIはロータリー・クラブの連合体ですから、当然のことながら奉仕団体とはなり得ません。

ロータリー・クラブの使命は、例会の場を通じて、ロータリアンの心に奉仕の理念を育むことにあります。ロータリアンは職業人であることから、探究されるべき奉仕の第一選択肢は、プロの職業人としての奉仕、すなわち職業奉仕であり、ボランティアズムに基づいた社会奉仕や国際奉仕がこれに次ぐことは論を待ちません。

ロータリー・クラブの評価は、そのクラブがどんな事業をしたかではなく、どんなロータリアンを作り出したかによって決まるものです。これがロータリー運動は人づくりにあるといわれる所以でもあります。

ロータリー財団の活動は、ボランティアズムに基づいた国際奉仕活動の一環であると同時に、寄付行為によってその成果を評価する活動でもあります。ロータリー財団の必要性は十分認識すべきですが、二頭立て馬車論は、ロータリー運動の主目的である奉仕哲学の探究と、奉仕の実践の一形態である財団に対する寄付行為とを同列に論じるものであって、いささか論理の矛盾が感じられます。

<財団への寄付>

ロータリー財団が自発的寄付の基礎のうえに発展してきた事実にかんがみ、財団への寄付を会員資格の条件とするとか、あるいはそのような意味のことを入会申込書に書き入れてはならない。ロータリー財団に寄付することを会員資格の条件とするようロータリー・クラブの細則を改正したり、ロータリー会員証にこのようなことを書き入れることは認められていない。

財団への一般寄付をRIへの人頭分担金とまぎらわしい方法で徴収したり、RIや地区が強制とも受け取れる方法で募金活動をすることは、この条文によって禁止されています。

RIとロータリー財団は、決して対等な関係にある二頭立の馬車ではなく、奉仕の理念に満ちたロータリアンを育てる責任を持つロータリー・クラブの連合体としてのRIの存在を第一義に考えなければなりません。その上で、奉仕の実践の一つの選択肢として、国際奉仕の重要性を理解したロータリアンの自発的な奉仕によってロータリー財団の活動を支えていくべきでしょう。

ロータリーの源流より 杉田 博(記)

21. クラブ・リーダーシップ・プランについて (Club Leadership Plan: CLP)

“私たちのクラブは殆ど死にかけていました。CLP がこのクラブの命を救いました。”

CLP を実行して貴方のロータリークラブを強くしましょう。

CLP は地区リーダーシップ・プランの延長であり、私たちの第二世紀の奉仕活動においてロータリーの安定、成長、成功に不可欠です。それはクラブ運営の枠組みを示し、ロータリーの目的追求のための行動を標準化し活動を導きます。

CLP は先ずロータリー・クラブに継続性、情報の伝達及びロータリアンの参加のための標準的な手続きの策定を支援します。このプランは「効果的なロータリー・クラブを作るための計画の手引き」を使用して戦略的な立案と目標の設定を助けます。その簡単な委員会組織はクラブの中心機能に焦点を合わせています。クラブの奉仕活動の目標とか親睦活動の必要に応じて拡大したらよいでしょう。

CLP は各クラブの自主性を築き上げるための基礎になります。実施のための九項目全てのロータリー・クラブの効果的な活動に必要な行動です。クラブはこれらの行動をお好きなように取捨選択して下さい。このような柔軟性のおかげでこのクラブ・リーダーシップ・プランは世界中のロータリーで実施することが出来ます。このクラブ・リーダーシップ・プランは新しい「推奨ロータリー・クラブ細則」、ロータリー指導者後継者育成（ペッツ研修セミナー及び地区協議会などを含めて）、「効果的なロータリー・クラブの計画手引き」、「クラブ訪問メモ」などに記載されています。

CLP は世界中のクラブで実施され成功しています。新規及び既存のクラブにもこの枠組みが推奨されています。全てのクラブはこのプランを検討して、既に実施されているものと、これから実施することにより役にたつものとを区別して下さい。ガバナー補佐はクラブの指導者のこれらの確認作業を手伝って、このプランの実施のための彼らの仕事を支援して下さい。クラブ・リーダーシップ・プランの実施により効果的なクラブが生まれて地域社会と世界の向上に貢献するでしょう。

より詳細な情報については……

<http://www.rotary.org/languages/japanese/newsroom/downloadcenter/245ja.pdf>

国際ロータリーの Club and District Administration の代表者にお尋ね下さい。

新しい「推奨ロータリー・クラブ細則」(Recommended Rotary Club Bylaws)

www.rotary.org の Download center から入手して下さい。

大和高田ロータリー・クラブでは、CLP 検討委員会を設置し、地区の全クラブへの説明会(2005/8/27)を境に一気に CLP に即した細則・内規を作り上げ、打ち合わせを重ね11月1日には改正された定款・細則が承認されました。2006_07 年度の役員、理事の選挙は CLP に基づく細則で実施されました。

しかし、本細則や内規は今後とも見直しを加え、クラブの活性化に対応できるものではない。

今のところ「仏を作ったところで魂を入れていかなければなりません。」・・・クラブのリーダーの方々は目的を完遂させるよう一層励み、クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)に基づくクラブ運営に努力戴きたい。

クラブ・リーダーシップ・プランとは

CLP の目的は効果的なクラブの運営枠組みを提示してロータリー・クラブを強化することです。効果的なクラブの必須要件は下記の通りです。

- ◆ 会員数を維持し、且つ増強すること。
- ◆ 地域社会及び他国の地域社会のニーズに対応したプロジェクトを完遂すること。
- ◆ 資金的な貢献ならびにプログラムに参加してロータリー財団を支援すること。
- ◆ クラブレベルから上でロータリーに奉仕できる指導者を育てること。

CLP を実施するために、現在、次年度及び過去のクラブの指導者は以下のことをしなければなりません。

1. 効果的なクラブの必須要件を具えるための長期計画の立案。
2. 「効果的なロータリー・クラブの計画手引き」に従って長期計画に沿った年次目標の設定。
3. クラブ協議会の実施に際しては会員を計画段階から参画させ且つ会員にロータリーの活動情報を継続的伝達すること。
4. クラブ会長、理事会、諸委員長、クラブ会員、地区ガバナー、ガバナー補佐、及び地区委員会との間の密接なコミュニケーションの確保。
5. 将来の指導者育成のために計画の引継ぎなど、リーダーシップの継続の確保。
6. クラブの委員会組織、諸規則、クラブ指導者の責任など、実態を反映した細則の改定。
7. クラブ会員間の親善、仲間意識を高揚する機会の確保。

8.全ての会員がクラブのプロジェクト又は行事に参加するよう配慮すること。

9.下記の目的達成のための包括的な研修プランの作成。

- 1)クラブの指導者が地区の研修会に出席のこと。
- 2)一貫した新入会員研修を定期的実施すること。
- 3)既存会員のために継続的な研修の場を作ること。

クラブの指導者はクラブ・リーダーシップ・プランの実施に際して、地区リーダーシップ・プランの規程に従って地区指導者の指導を受けること。プランは毎年見直しが必要。

また、最近 RI の Web ページでは CLP の冊子 (推奨細則入り) が人気です。

<http://www.rotary.org/languages/japanese/support/clubplan.html>

クラブ・リーダーシップ・プランとは、ロータリー・クラブに推奨される管理構成であり、効果的なロータリー・クラブのベスト・プラクティス(最善の実践方法)に基づいて作成されています。これらのベスト・プラクティスの例として以下のようなものがあります。

- ①効果的なクラブが持つ要素に取り組む長期目標、およびそれらを支える年次目標を策定する。
- ②定期的にクラブ協議会を招集する。
- ③クラブの活動や親睦にすべてのクラブ会員を参加させる。
- ④連絡伝達(コミュニケーション)の円滑な方法を維持する。
- ⑤指導力の継続性を確保する。
- ⑥定期的かつ首尾一貫した研修を提供する。

クラブ・リーダーシップ・プランは、世界中の各ロータリー・クラブのニーズに合わせて修正を加えることができます。

1.クラブの委員会

クラブ奉仕の諸委員会の任務は四大奉仕部門に基づいて設定されたクラブの年次及び長期目標を達成することです。会長エレクト、会長、直前会長は協力してリーダーシップの継続性と継続案件の維持に努めます。出来れば、委員会のメンバーは一貫性を保つために任期は三年間が望ましいです。会長エレクトは委員会メンバーの欠員の補充、委員長任命、新年度の開始に先立って計画のための会合を召集しなければなりません。メンバーとしての経験がある委員を委員長に任命することをお勧めします。クラブに必要な常任委員会は次の通りです。

2.会員

この委員会の任務は会員増強および会員の退会防止のための包括的な計画の策定と実施です。

3.クラブ広報

この委員会の任務はロータリーに関する情報の地域社会への配布、更にクラブの奉仕プロジェクトおよび活動増進の計画の策定と実施です。

4.クラブ運営

この委員会の任務はクラブの効果的な運営に関連した活動の指導運営です。

5.奉仕活動プロジェクト

この委員会の任務は地域社会及び他国の地域社会のニーズに対応した教育的、人道的、職業的プロジェクトの策定、及び実施です。

6.ロータリー財団

この委員会の任務は、寄付金およびプログラムへの参加によりロータリー財団を支援するプランの策定及び実施です。

それ以外の委員会は必要に応じて設置したら良いでしょう。

必要な研修

クラブ奉仕委員長は委員長の就任に先立って地区協議会に出席して下さい。

地区リーダーシップ・プランとの連携

クラブの委員会はガバナー補佐及び関連した地区委員会との連携が必要です。

報告義務

クラブの委員会は夫々の活動状況を定期的にクラブ理事会に報告し、更にクラブ協議会でも適切な報告が必要。

本文は、RI ニュースより抜粋
杉田 博(記)

大和高田ロータリークラブについて

2650 地区においては 2006_7 年度に向け約 50%のクラブが CLP 導入されたようです。我がクラブもいち早く形式的（細則・内規の改定）に CLP の導入が始まりました。本来のクラブの活性化という点で、創立 45 周年を迎えた今、これを契機にロータリーの理想である「超我の奉仕」の理解と実践に向け、楽しいクラブ、世に役立つ奉仕、更なる発展のため組織、会員自身の意識高揚を高めていかなければなりません。

下記は、クラブ内規にある特別委員会です。CLP に関して、「クラブ長期ビジョン検討委員会」が新設され、長期(3～5 年)の方針が形成されることが特筆です。この委員会の運営をより充実したものにするためにはクラブの実態調査(各種アンケート調査など)や各委員会、地区別情報集会、クラブフォーラム(ゲストを迎えての卓話という最近のフォーラム形態でない会員自身が議論する会合)、新人研修会等が重要な会合となりましょう。

■特別委員会

下記の特別委員会は付託された職務および会長または理事会が付託する事項を処理すべきものとする。理事会によって特別権限を与えられた場合を除き、これらの委員会は、理事会に報告して、その承認を得るまでは行動してはならない。

(a) 指名委員会の構成

細則第 3 条、第 1 節よる指名委員会の構成は、会長経験者直前7代および会長、会長エレクトとする。委員会には委員長および副委員長を置き、委員長並びに副委員長は委員の互選とする。

(b) クラブ内規委員会

年 1 回以上開催するものし、必要に応じて本内規を改正することができる。また、必要に応じてクラブの定款および細則についての審議を行う。

当該年度の規定・内規委員会がこれを担当するが、本会の構成は会長経験者直前 5 名、幹事経験者直前 5 名、会長、会長エレクト、副会長、幹事、副幹事および規定・内規委員会より 1 名、合計 16 名とする。委員会には委員長および副委員長を置き、委員長並びに副委員長は委員の互選とする。

(c) クラブ長期ビジョン検討委員会

会長は、年 1 回以上開催するものとする。本会は当クラブの指導力の連続性を確実にし、5 年に亘る継続的な目標、計画、事業展開を検討するために設置する。そのビジョンについては会員に徹底するためにもクラブアッセンブリーやフォーラム等にて報告する。

本会の構成は直前会長、会長、副会長、会長エレクト、次々年度会長、幹事、副幹事、会計、副会計および 3 名の元会長、合計 12 名とする。委員会には委員長および副委員長を置き、委員長並びに副委員長は委員の互選とする。

(d) 周年委員会、IM 実行委員会

原則的に、理事会は当クラブの周年委員会を 5 年毎に設置し、IM 実行委員会は必要な時期に設置し、その委員長は理事会にて指名する。理事会によって特別の権限を与えられた場合を除き、各委員会の構成は、委員長が指名する。

■クラブ諮問委員会とは

会長は、必要に応じて諮問委員会を開催することができる。本会の構成は歴代会長経験者、会長、会長エレクト、副会長および幹事とする。

大和高田ロータリー・クラブの先輩リーダー経験者にクラブ全般にわたり、幅広く、会長が諸問題を諮問し、意見を聞きクラブの運営などの参考にする。

■常任委員会・小委員会

(a) 委員会の継続性

委員会が効果的に運営するために、指導者に継続性をもたせるものとし、原則として、クラブ委員会に最低 3 人の委員を任命するものとする。その内それぞれ少なくとも 1 人は 1 年の任期を務め、1 人は 2 年の任期を務め、1 人は 3 年の任期を務めるものとする。また、2 年目の委員を委員長にし、3 年目の委員は委員会の指導的立場になることが望ましい。ただし、委員長経験者、委員長、副委員長、委員とする場合は最低 4 名となる。

■委員会構成

会員はロータリーを理解し、実践するために原則的に 2 つの委員会に属する。1 つはクラブ管理、会員増強、広報委員会とし、あと 1 つは奉仕プロジェクトとロータリー財団委員会に属することが望ましい。

●R.I の人気サイト(研修) 2006 年 3 月 30 日現在

<http://www.rotary.org/languages/japanese/training/index.html>

このページから、ダウンロードサイトへリンクされ、必要な資料も入手できます。

大和高田ロータリー・クラブのクラブ・リーダーシップ・プラン

1.目的

効果的なクラブの管理の枠組みを提供することにより、クラブの強化を図ることで。以下は、効果的なクラブの要素です。

- ▶ 会員基盤を維持、拡大する。
- ▶ 地元地域社会並びに他の国々の地域社会のニーズを取り上げたプロジェクトを実施、成功させる。
- ▶ 資金の寄附およびプログラムへの参加を通じてロータリー財団を支援する。
- ▶ クラブの枠を超えてロータリーにおいて奉仕できる指導者を育てる。

2.実施段階

クラブ・リーダーシップ・プランを実施するには、現在、次期、元クラブ指導者は以下を行うものとされています。実施・推進役の代表は会長はじめ各常任委員会委員長が行い、管理・監督する。

次ページは実施の9段階の一覧表です。

項	実施項目	資料	担当
1	効果的なクラブの要素に取り組む長期計画を立案 (ロータリー財団や米山奨学会への継続性のある 寄附や地区補助金制度の活用等を策定する)	① 満足度アンケート ② クラブ活力テスト ③ クラブ長期計画 (クラブ改革提言など 含む)	長期ビジョン検 討委員会 財団・米山奨 学委員長
2	「効果的なロータリー・クラブとなるための活動計画 の指標」を使用して、長期計画と合致した年間目標 の設定	④ 効果的なクラブと なる活動指標・ク ラブの棚卸	会長・副会長・ 幹事
3	クラブ協議会を開催し、会員に計画策定に参加し てもらい、ロータリーに関する情報を常に把握して いられるようにする。		広報委員長 クラブ管理運 営委員会
4	クラブ会長、理事会、委員会委員長、クラブ会員、 地区ガバナー、ガバナー補佐、および地区委員会 の間に明確な意思疎通が図られるよう確認する。		会長・幹事
5	将来の指導者育成を確実にする一貫した引継ぎ 計画の概念を含め、指導者の継続性を確保する。	⑤クラブリーダーシップワ ークシート	会長・副会長
6	クラブ委員会構成とクラブ指導者の役割と責務を 反映させるべく、細則に修正を加える。	⑥大和高田ロータリ ー・クラブ細則(案)	クラブ管理運 営委員会
7	クラブ会員の親睦をさらに深めるような機会を提供 する。		クラブ管理運 営委員会
8	全会員がクラブのプロジェクトや業務に活発に関与 するよう計ろう。		奉仕プロジェク ト委員会
9	以下を確実にするための包括的な研修を企画す る。 (1) クラブ指導者が地区研修会合に出席する。 (2) 新会員のための一貫したオリエンテーションを 定期的実施する。 (3) 現会員のための継続的教育の機会を提供す る。	⑦2003～2004 年度試 験的採用クラブから のフィードバック	会員増強委員 会
備考	(1)添付の資料①～⑦の書式に基づき作成下さい。作成する上で用紙様式の標準化を進め る。 (2)常任委員長は管理下にある小委員会の委員長と協力し本、CLPの実施段階を推進する。		

22.ロータリアンの幸福

ロータリアンになってよかったこと・・・

20 項目が挙げられております。みなさまの実感・体感をまわりの方々にも広げてください。

- ① 人を幸せにすることで、自分も幸せになる。
- ② よいことをする機会があり、とても気分が良い。
- ③ 親切にすると感謝され、自分も嬉しい。
- ④ 笑顔が身につき、人相が良くなる。
- ⑤ 人から好かれる性格になる。
- ⑥ リーダーシップの勉強ができる。
- ⑦ スピーチもそれなりに上手になる。
- ⑧ 知識も広まり、人格が円満になる。
- ⑨ 礼儀正しく、時間を守るようになる。
- ⑩ ロータリーの会合では心が癒される。
- ⑪ 良い友人が沢山できる。
- ⑫ ロータリアン同志は信じ合える。
- ⑬ 尊敬できる人との出会いがある。
- ⑭ 困った時に相談する相手ができる。
- ⑮ 特別の宗教にかたよらず、宗教心が学べる。
- ⑯ 健康を維持し、長生きができる。
- ⑰ 家族どうしの交流も広がる。
- ⑱ 事業がうまく行き、天職も見つかる。
- ⑲ 寛容の心を持ち、人を許すことができる。
- ⑳ 最後には自分が幸せであることを悟る。

また、新会員(入会 3 年未満)からのアンケートとして、2005_06 年度の 2650 地区ロータリー情報委員会でもとめられたものがあります。

入会の誘われた言葉、入会動機、クラブに対しての要望、ロータリーに対する提言・要望などが纏められており、会員の増強などの参考にしてください。

(資料)

1. 2005-06 年度 2650 地区 地区大会 「新人研修セミナー」(新会員と語る会)
http://www6.ocn.ne.jp/~ytrotary/topix/Question_2006.pdf
2. ロータリーの原点について
http://www6.ocn.ne.jp/~ytrotary/topix/basic_rotary.pdf
3. ロータリーとは
http://www6.ocn.ne.jp/~ytrotary/topix/Whats_rotary.pdf

参考文献

1. R.I 資料 会長用資料「4 分間スピーチ」
2. ロータリーの源流(2680 地区 パスト・ガバナー田中 毅氏)
<http://www1.odn.ne.jp/~caz52570/>
3. 2005_06 年度 2650 地区 ガバナー月信
4. 2005_06 年度 ロータリーの友
5. 大和高田ロータリー・クラブ メーリングリスト
ytinternet@freeml.com
6. R.I 研修サイト
<http://www.rotary.org/languages/japanese/training/index.html>
7. 2840 地区 地区大会基調講演 2840 地区 清 章司 PG

編集後記

本ロータリーミニ情報集は、現在(2006 年)ロータリー在籍 23 年にもなるのですが、ロータリーについての知識が余りにも不足していたのを反省し、1999 年にクラブの幹事職を仰せつかった頃からロータリー情報に興味をもち、インターネットを介して会員の皆様向けにロータリーの豆知識(4 分間スピーチ:全 22 回)を発信していたものをこの度、編集しました。各回の質問にご回答戴いたことが約 6 ヶ月間続けられたことと思い感謝しております。また、先達、先輩諸兄の講演記録、Web サイトの記事等を拝見、拝借させていただいたことにもこの場をお借りしてお礼申し上げます。

若きロータリアンの一助になれば幸いです。また、皆さまのロータリー生活を楽しみ、奉仕活動に邁進されることを祈念します。

2006 年 4 月 25 日

2650 地区 地区情報委員会 副委員長 杉田 博(大和高田ロータリー・クラブ所属)